

「生活場面における外国人の書きことば」
に対する一般日本人の評価

国立国語研究所
宇佐美 洋

日本人を不快にさせる？

学習者作文の例

- 場面：学生AはB先生に，大学院での研究テーマをいくつか考えてメールで送るよう言われていた。数日考えて，AはB先生にメールを送った。

こんにちは， B先生。Aです。大変お待たせ致しました。 本当に申し訳御座いません。

野田(2008)より

従来の作文教育は…

- 生活場面で実際に書く必要がほとんどないような種類の文章を書かせる
 - 「私の国」・「日本に来て最も驚いたこと」
- 文章を書く目的・読み手が明確に設定されていない
- 待遇表現の軽視
- その結果，上級に達した学習者でも「生活場面で必要となる簡単な文書さえ満足に書けない，という状況が

新しい作文教育への提言

- 作文教育にも「コミュニケーション教育」という観点を導入すべき(由井2005)
 - 「読み手がどう感じるか」ことの想定
- 「一般日本人からの評価」を勘案してシラバス構築を(小林2004)
 - コミュニケーションにおいて、一般日本人が極めて深刻と感じる誤用・逸脱表現についてはシラバスで重点的に扱う

しかし・・・

- 人によって、「外国人の文章」に対する評価観は千差万別
 - まったく同一の表現に対し、人によって正反対の評価を、与えてしまうということも(宇佐美・森・吉田2009)
 - 日本人の「平均的評価観」を想定することには意味が薄い
- 教師の個人的評価観が、「日本人の評価観」として過剰に一般化されてしまうおそれも

「評価の方向性」自体が異なる場合

- 宇佐美・森・吉田(2009)
 - 外国人が日本語で書いた「謝罪文」10編を日本人に読んでもらい、評価の過程をプロトコル分析
- 「謝罪文」において、人によって評価の方向性自体が大きく異なるのは…
 - 相手の要求に従えない理由を詳細に説明している箇所
 - 相手の要求に従えない代わりに新しい提案をする箇所
 - どうすればよいか、読み手に相談を持ちかけている箇所、など

要するに…

- 評価者によって、「謝罪者にどういう態度を期待するか」が違う
 - 謝罪者は被謝罪者に対し、一切の働きかけをせず、ひたすら恭順の意を示すことを期待
- ↓
- 謝罪者からも被謝罪者に対し一定の働きかけを行うことで、より良い人間関係の構築に貢献することを期待

提言：ストラテジーの転換を

- ~という言語行動は，日本人に低く評価されてしまう可能性がある→だからやめておこう



- ~という言語行動が，日本人にどのように評価されてしまう可能性があるのかを知ったうえで，最良のストラテジーを考えよう

参考文献

- 宇佐美洋・森篤嗣・吉田さち(2009)「生活場面で必要となる日本語書きことば」に対する母語話者の評価—どういふ場合に、なぜ評価はばらつくのか—」『待遇コミュニケーション研究』6, 33-48.
- 小林ミナ(2004)『日本人は何に注目して外国人の日本語運用を評価するか』(平成12～15年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)研究成果報告書)
- 野田尚史(2008)「配慮したつもりなのに良い印象を与えない日本語非母語話者の配慮表現」『日本語教育学世界大会2008予稿集』2, (第7回日本語教育国際研究大会、釜山外国語大学校) 126-129.
- 由井紀久子(2005)「書くための日本語教育文法」『コミュニケーションのための日本語教育文法』(野田尚史・編) 187-206. くろしお出版